

サッポロホールディングスが不動産事業に外部資本を導入—格付の制約とはならず

以下は、サッポロホールディングス株式会社（証券コード：2501）が、サッポロ不動産開発株式会社への外部資本導入に関する公表を行ったことに対する株式会社日本格付研究所（JCR）の見解です。

■見解

- (1) 当社は12月24日、完全子会社のサッポロ不動産開発（SRE）に対するSPARKによる出資を含む一連の取引を決議し、契約を締結した。SPARKはPAGおよびKKR等が助言・運営するファンドが共同出資する合同会社である。取引価額はSREの借入金を含め企業価値ベースで4,770億円。本件取引では、三回に分けたクロージングが行われる予定。第一回（26年6月1日予定）において、SPARKはSREの議決権51.0%を取得。第二回（28年6月1日予定）を経て、第三回（29年6月1日予定）に、その時点で当社が保有するSREの議決権すべてをSPARKに異動させる。本件取引により得たキャッシュは主に酒類事業の成長投資に充当されるほか、不動産事業に関連する負債の返済、株主還元に充当される予定である。なお、恵比寿ガーデンプレイスの信託受益権の30%、GINZA PLACE及びサッポロガーデンパークの一部は、酒類事業の価値向上に向けた活用が予定されており、本件取引の対象から除外される。
- (2) 本件取引の第一回のクロージング実行日をもって、SREは当社の連結子会社から除外される。このため、グループ業績についても、以後、不動産事業による貢献は大きく低下することとなる（25/12期第4四半期より不動産事業は非継続事業に分類される）。もっとも、国内酒類事業の収益力向上や食品飲料の構造改革効果などで、近年、グループ業績は堅調に推移しており、従前に比べ不動産事業への業績依存度は低下している。また、本件取引で財務構成は一定程度の改善が見込まれ、成長投資の実施にあたっても財務健全性を適切にコントロールしていく旨の方針が示されている。このためJCRでは、今回の発表を受け、直ちに格付を変更する必要はない判断した。JCRでは今後、成長投資の具体的な取り組みや、これによる業績面の効果に注目していく。

（担当）殿村 成信・藤田 剛志

【参考】

発行体：サッポロホールディングス株式会社
長期発行体格付：A- 見通し：安定的

■留意事項

本文書に記載された情報は、JCRが、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したもので、ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCRは、明示的であると默示的であると問わず、当該情報の正確性、結果、的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCRは、当該情報の誤り、遗漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCRは、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であると問わず、一切責任を負いません。また、JCRの格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものではありません。JCRの格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいて行っています。JCRの格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCRが保有しています。JCRの格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCRに無断で複製、翻案、改変等をすることは禁じられています。

■NRSRO登録状況

JCRは、米国証券取引委員会の定めるNRSRO（Nationally Recognized Statistical Rating Organization）の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。（1）金融機関、ブローカー・ディーラー、（2）保険会社、（3）一般事業法人、（4）政府・地方自治体。

■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL: 03-3544-7013 FAX: 03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.

信用格付業者 金融庁長官（格付）第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル